

# 議会だより

● 発行所 ●

一宮町議会

〒299-4396 千葉県長生郡一宮町一宮2457  
TEL 0475 (42) 2111 (代)  
TEL 0475 (42) 1421 (直)  
FAX 0475 (42) 2465

発行 一宮町議会  
編集 議会報編集委員会



もうすぐ春ですね (原保育所)

平成 22 年 2 月  
第 134 号

## 20年度決算認定される

- 12 月定例議会で決まったこと ..... (2)
- 20 年度決算審査特別委員会 ..... (3)~(7)
- 一般質問 4 名の議員より ..... (8)~(11)
- 請願・発議・臨時議会 ..... (12)
- 表彰・議会の動き ..... (13)
- 行政視察研修報告・編集後記 ..... (14)



# 十二月定例議会・条例制定・補正・契約

平成21年第4回一宮町定例議会は12月8日に開催され、町長の行政報告をはじめ、一般質問は4名の議員がおこなわれました。

また、町側より平成20年度一般会計他7特別会計の決算認定のほか、議案として条例の制定2件・一般会計他補正4件・契約1件が提出され、すべて原案どおり可決されました。



じょうずにつけるかなあ（軍荼利）

## 一宮町選挙公報の発行に関する条例の制定

この条例は、公職選挙法の規定に基づき、一宮町議会議員及び一宮町長選挙における候補者の氏名・経歴・政見等を選挙人に周知するため、選挙公報の発行に必要な事項を定めるもので、平成22年4月1日から施行します。

## 一宮荘特別会計条例等を廃止する条例の制定

一宮荘の閉館に伴い、一宮荘特別会計条例他関連する次の条例を廃止するものです。

- 一宮町国民宿舎一宮荘設置及び管理に関する条例
- 一宮町老人福祉センター特別会計条例
- 一宮町老人福祉センター設置及び管理に関する条例
- 一宮町営プール設置及び管理に関する条例

## 一般会計補正予算（第4次）

歳入歳出予算の総額に4千7百6万5千円を追加し、歳入歳出予算の総額を38億3千1百97万7千円とするものです。

主な内容は、釣ヶ崎海岸広場測量委託6百41万6千円、全国瞬時警報システム接続工事8百62万円、通所サービス利用促進事業補助金3百50万3千円、身体障害者更生医療給付6百93万6千円、児童手当3百61万円、新型インフルエンザワクチン接種事業8百39万3千円、小学校の図書購入費1百万円等です。

これらの財源は、国庫支出金5百12万8千円、県支出金2千5百23万9千円、ふるさと応援基金繰入金1百万円、繰越金1千5百69万8千円です。

## 一宮荘特別会計補正予算（第3次）

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ1千1百58万5千円を減額し、歳入歳出を7千3百45万9千円とするものです。

内容は、平成22年1月末で一宮荘が閉館するため、宿泊利用者の減少に伴う事業収入や、賄材料費等の減によるものです。

## 老人福祉センター特別会計補正予算（第3次）

歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ50万2千円を減額し、歳入歳出を2千2百30万4千円とするものです。

内容は、平成22年1月末で一宮荘が閉館するため、風呂利用者の減少及び見込みによる減額です。

## 農業集落排水事業特別会計補正予算（第3次）

歳入歳出予算の総額に71万6千円を追加し、歳入歳出を1億1千5百59万円とするものです。

内容は、9月に消費税の確定申告をおこない税額が決まりましたので、3月の納付にあたり追加するものです。

## 契約

事業名 庁内ネットワーク更新事業  
契約金額 8百87万2千5百円  
請負業者 千葉市中央区富士見2丁目20番1号  
日立電子サービス(株)千葉支店

千葉支店長 中原亮二

# 平成20年度決算を認定

## 平成20年度会計別決算額

(単位：円)

会計名	収入額	支出額	差引金額	
一般会計	3,776,608,042	3,611,202,493	165,405,549	
特別会計	国民健康保険事業特別会計	1,368,728,407	1,275,568,566	93,159,841
	老人保健特別会計	168,273,933	144,434,693	23,839,240
	介護保険特別会計	782,108,057	752,327,265	29,780,792
	後期高齢者医療特別会計	120,603,360	119,832,310	771,050
	一宮荘特別会計	80,369,966	78,905,790	1,464,176
	老人福祉センター特別会計	21,387,223	21,022,546	364,677
	農業集落排水事業特別会計	104,825,086	98,714,414	6,110,672
	小計	2,646,296,032	2,490,805,584	155,490,448
合計	6,422,904,074	6,102,008,077	320,895,997	

平成20年度各会計の決算審査は、9月定例議会で特別委員会を設置し、閉会中の継続審査として付託されました。決算審査特別委員会は、10月19日から20日の2日間に亘り慎重に審議がおこなわれました。審査は、予算で議決された趣旨と目的に従って、適正にそして効率的に執行されたか、期待された行政効果は達成されたか等、また、新年度予算とのつながり等を客観的に判断し、熱心に審議されました。その結果、一般会計・国民健康保険事業特別会計・介護保険特別会計・後期高齢者医療特別会計は賛成多数で、他の4会計については、全員賛成にて認定すべきものとし、本会議において可決認定されました。尚、決算審査特別委員会での質疑、答弁の一部及び要望は次のとおりです。

### 一般会計

### 総務・文教

**問** 町税はどこの市町村でも減収傾向にあるが、当町の平成22年度予算編成にはどう反映するのか

**答** 今年度予算には、あまり影響が出ない。全収入の3分の1を町税が占めているが、当町には大きな企業がない。また、個人住民税は1年遅れて影響が出てくるので、22年の予算は減少が見込まれる。

**問** 職員の時間外勤務手当と週休日の振替休日・代休の取り扱い

**答** 平日の時間外勤務は、管理職が必要と認められた場合に時間外勤務としているが、実情は残務整理のケースがみられる。週休日の勤務は、4時間または1日の勤務の振替休日とし、国民の祝日等は代休としている。

**問** 勤務が過重でないかとの指摘もあるので、今後改善等検討する。

**答** 平成19年度に計上されていた農林水産業費委託金が平成20年度には計上されていない。松くい虫防除はどうなったのか

**答** 海岸保安林の松くい虫防除は、県が直接おこなっている。民有地の松くい虫防除は、これまで県から町が委託されていた。平成20年度から県は、直接業者委託とし、事業は継続して実施している。



東浪見小学校大規模改修工事（屋上）

**問** 職員研修費を増額して町のテーマや課題に積極的な活用をすべきでは

**答** 各課で専門研修をおこなっており、研修費用総額は50万円となっている。今後先進地視察など積極的に取り組めるよう推進したい。

**問** 防犯灯設置は、東京電力から寄付された10基を含め26基となっているが、住民要望は満たされているか

**答** 区長からの要望で設置している。平成20年度は全ての要望に応えた。全箇所を検証し必要性を判断した。

## 経 済

**問** 釣ヶ崎エコトイレの現状説明を求めます。

**答** 使用者の8〜9割はサーファーで一般の方はほとんど使用していない。サーファー組合にマナーの悪さを指摘すべきである。また、トイレの機能が持続可能なでない場合はどうなるのか

**答** 近隣の方から「トイレが欲しい」と要望があり、ボランティアによる管理が条件で設置に至ったが、使用マナーが悪く、思った以上に大変であることが判った。サーファー組合には大会があるたびに、トイレ管理維持費の協力をお願いしているが、受け入れてもらえない。

**問** 機能については、3年後に協議をして、トイレが必要なければ、特定非営利活動法人（次世代水回り研究会）が撤去する。

**答** ボランティアの方々は、今後も継続して管理協力頂けるよう、お願いする。

**問** 町税等の全庁体制での徴収実績や実情は、どのようになっているか

**答** 管理職・一般職員による全庁体制で徴収を実施している。

**問** 税収アップを期待するよりも、職員に税金の大切さや集めることの苦労を知ってもらい、使い方を考えてくれることを期待したい。

**問** 税源委譲により所得税と住民税の税率が変わった。これにより、住民税はどのようになったのか

**答** 1億円ほど増加した。

**問** 玉前神社補助金の説明を

**答** 平成23年までの事業で20年度は2百万円弱です。

**問** 公民館の使用料が時間単位に変わったが、見込みどおりに進んでいるか。

**答** また、GSSセンターへの案内看板がないために通り過ぎてしまう人がいる。看板設置の検討を

**答** 1時間単位の利用で不平等感はなく、申し込み時間内で会議等が終わるようになった。稼働率も昨年と同程度である。

**問** 看板の設置は、来年度の予算に反映されるよう財政と協議し検討する。

**問** 県道松丸一宮線の国道からの入口で事故があった。対策を求めます

**答** 県の管理する個所で、県の回答は、幅員が5.5mないとセンターラインは引けないといわれたが、入口の先の所は引いてあり、再度要望する。

**問** 九十九里地域地盤沈下対策協議会負担金がなくなった理由は

**答** 協議会の繰越金で対応しており、22年度から町村は7千円で市町村負担金審議会に要望を予定していると聞いている。

**問** 快適な環境づくり事業補助金とは

**答** 一宮町老人クラブの地域内の清掃活動に対する補助金である。

**問** 地下水汚染除去対策事業は、補助金が出なくなるかと聞か、見直しは

**答** 汚染除去は10年来実施しており、結果は町民に回覧で報告している。除去時

間を8時間から24時間稼働に切り替え、環境基準の早期達成を図っている。

**問** 神門踏切北側の歩道設置の経過は

**答** 平成17年から議会でも5回審議されている。

JRからは南側の拡幅は最大で1m、それ以上になると構内改良が必要となり費用も膨大になる。

県からは1m程度の拡幅では、歩行者用遮断機設置の関係で歩行者空間の確保は難しい。

**問** 今年度からバリアフリー協議会を発足し、現場踏査を実施して、改善計画の要望書を関係機関・JR・千葉県県長生地域整備センターに提出した。

今後とも町とバリアフリー協議会で一緒に実現に向け要望していく。

**問** 上総おどりの場所が駅下から変更になったが、理由は

**答** また、来年は国道で実施できないかとの話もあるが

**答** 駅下だと距離が短い。上だと狭い等いろいろ意見があったが、商工会長か

ら商店会の活性化のためとの話があり、検討委員会決定した。上の方が賑やかになったと思う。

**問** 来年は、町制120周年なので国道での話があり、まだ発表できる段階ではないが、警察と話をして。昔と違い、宅配便等へ周知するため、ラジオ放送での広報が必要などの指導もあつた。今後警察と話し合いをする。

**問** 釣ヶ崎の祭典場の舗装はできないのか

**答** 町づくり推進課で県等と話し合いをしている。舗

装する考えはあるが、社長の意見も聞く必要がある。

**問** 一宮町、睦沢町の共同で運営している有機センターの不足分の支出があるが、睦沢町では農地・水事業を使って田んぼに堆肥を撒いている。その期間の設備費用が、当町に求められているのでは

**答** これまでは、町の関与がなかった。今後は、協議会で委員と共に町の考えを出していきたい。農地・水事業は、政権交代もあり、2年続か心配である。



県道一宮椎木長者線改良工事



# 厚生

**問** 一宮町シルバー人材センターに登録されている人の仕事の配分は平等か

**答** 事務担当者は平等にと考えているが、依頼者からは腕の良い人に依頼したいと指名されることが多い。

**問** 今年度から77歳の敬老祝品がなくなった理由は。また、広報の通知はしたか

**答** 平均寿命が延びたことにより対象者が増加し、予算が増額になることで今年



東浪見学童保育クラブ施設

度から廃止した。郡内で敬老大会を開催しているのは、一宮町のみである。代わり各地区(5地区)社会福祉協議会に創意工夫して実施するようお願いした。

**問** 広報では知らせていないが、議会及び社会福祉協議会には報告した。

**問** 医療フォーラム等住民の関心が高まっている。1次・2次医療の最近の進捗状況を伺う。長生郡市内には3次医療がないが

長生病院の充実として医師を30人に増やし、赤字対策を望むが、空白時間をどうするか郡内で検討し、小児科医の体制づくりも協議している。

3次医療については、千葉県地域医療再生プログラムの話を聞いている。詳細は今後検討されると思う。医師の充実、長生病院経営改善検討会議で、運営を検討する。

**問** 保育児童の管外委託の理由は

**答** ほとんどが両親の勤務時間等により、勤務先に近い保育所に入所するためである。

**問** 待機児童の状況は

**答** 核家族の進行や経済不況による共働き世帯の増加により、保育所への入所を希望する児童が増えている。現在、保育士不足のため3名が入所待ちをしている。

**問** 一宮・原保育所は、定員をオーバーしているが

**答** 国の入所円滑化対策により、年度途中では定員の25%まで増やすことが認められている。

# 特別会計

## 国保

**問** 新しい制度が発足し、20年度の予算作成は大変だったと思うが、歳出の決算見込みでは5千3百万円減少している。医療費の大幅な減であると説明されたが、医療費の減少内訳は他にも理由があるのか。あるいは、過大見積りをしていったのか。

繰越金が9千万円出た理由は

**答** 19年度と20年度を比較すると、入院件数49件の減、入院日数1007日減で、これが大きな理由である。その他歳入で国・県等の交付金の増がある。

**問** 予備費を5百万円計上している町村もあるが、当町は1千万円計上している。根拠はなにか

**答** 根拠は特になく、急に医療費が増額になった場合に対応するものです。

## 老人保健

質疑応答なし

## 介護保険

**問** 減免の規定(介護保険条例)を改定したが、施行状況は

**答** 減免の相談が数件あったが、相談者に収入が対象になる方はいなかった。

滞納者は77人いるが、随時個別訪問している中で、減免の相談はない。滞納者は介護サービスを利用していないので、介護保険料を支払いたくないとの回答が多い。また、滞納者は年金が年間18万円以上の者は、最初の1年間位は普通徴収だが、その後特別徴収となるため、普通徴収分が滞納となっている方がかなりいる。

**問** 介護保険料の徴収猶予も、減免と同様な改正が必要では

**答** 滞納者を随時訪問しているが、徴収猶予の相談はない。

## 後期高齢者医療

**問** 介護従事者処遇改善臨時交付金は、平成23年度以降交付の予定はあるか

**答** 現在、国から交付の情報はない。

**問** 延滞金の徴収はしているのか

**答** 徴収は、延滞金の徴収より本税を優先している。特別の事情がないのに延滞した場合は、未納期間に応じて利用者負担が1割から3割になる。

## 一宮荘

**問** 特別徴収保険料は、年金額1万5千円以上受給している方は、年金から天引きされているので、収納率は100%なのか

**答** 質問の通りです。

**問** 22年1月で廃業とのことだが、近隣他市町村の国民宿舎の動向は

また、宿泊して町営グラウンドを利用している団体は

どれくらいあるのか

**答** 白子町「白子荘」は、ホテル「かねい」グループが指定管理制度で営業している。砂風呂「アクア」は、5月中旬閉鎖された。千葉県の管理「清和荘」は、今年3月で閉鎖され、県と君津市で協議中と聞いている。

宿泊して合宿等利用しているチームは、少年野球関係5、大人野球関係2団体が主な常連客です。

## 老人福祉センター

**問** 22年3月で閉鎖と聞か、無料の風呂対策は

**答** 福祉関係との兼ね合いがあり検討中です。現在40人位の利用者があり、実態を把握しているところでは

**問** 議会はセンターも一緒に廃止すべきと思っているが、行政は、どのように考えているのか。

また、風呂をうまく利用して「道の駅」と合体してはどうか

**答** 廃止を視野に入れて検討している。広報に掲載し町民に周知する。「道の駅」は、廃止してからの問題と考えている。

## 農業集落排水事業

**問** 未納者の対応はどうするのか

**答** 使用料の他にも分担金の滞納もある。組合も理事と協力し、滞納整理に訪問などで対応している。

**問** 組合にも連帯責任がある。使用料の滞納は増えているのか

**答** 昨年より減っている。

**問** 分担金は

**答** 原地区は、今年で分担金の支払いが終了することで解散の話がある。分担金に未納があると解散できず、理事が回収に歩いている。

**問** 支払うべきものを支払わない。施設のない地区の方から見ると、施設を利用して支払しないのでは納得

できない

**答** 原地区は解散を打ち出している。使用料は町が集めることになっている。解散前に、分担金や使用料の法律的な取り扱いを司法書士や弁護士に相談する。前任者の申し送りでは接続し使用していれば、下水は止められないとの見解であったが、今後、専門の弁護士に相談する。

**問** 北部の電話使用料が、他の2地区に比べ多いのは

**答** 中継ポンプなどの緊急通報システム回線の数に違いがあり、北部が7回線・原が2回線・東浪見地区が5回線ある。通話料に多少の違いはあるが、基本料金を合わせた1回線あたりの料金は同程度である。回線数の多い分、北部地区の電話料金が多くなっている。

### 決算審査特別委員会

委員長	中村新一郎
副委員長	畑場 博敏
委員	森 佐衛
委員	萩原 一美
委員	柴原 重悦
委員	鶴岡 巖
委員	島崎 保幸
委員	室川 常夫
委員	志田 延子

## 平成20年度 要望事項

1. GSSセンターへの見やすい案内看板の設置を求める。
2. 法人税の落ち込みが見られるが、22年度の予算編成に適切な対応をするよう求める。
3. 神門踏切の北側歩道増設の早期実現に向け、引き続き積極的な取り組みを要望する。

### 平成19年度 要望事項

#### の回答

**問** 各種委託料及び補助金のあり方の検討を

**答** 各課から予算要望された委託料のうち、可能な限り総務課で一括発注し、経費節減をしている。

民間業者よりも安く、また、町の雇用対策にもなるためシルバー人材センター等へ委託している。

平成22年度補助金は、各課で査定後に副町長・総務課長・まちづくり推進課長が再度検討することにした。平成23年度予算からは民間の方々による委員会を立ち上げ、見直しをおこなう予定である。

**問** 東浪見土地区画整理事業

業地内の建物が建築されている土地には、宅地並み課税の検討をすべきでは

**答** 見直しをおこなっており、現在家が建っている土地は、平成22年度から一般の宅地と同様に扱おうよう事務を進めている。

### 反対討論

#### 一般会計

畑場 博敏議員

当町の20年度の当初予算審議は、国の「構造改革」路線による毎年2千2百億円を削減する社会保障抑制案が実行され、弱者にそのしわよせが集中するようなことで進められてきた。そのようななかで、町には少ない予算でも生活応援できる予算への展開を求めてきた。

町政も玉川町政へ転換が図られた年でもあった。生活弱者救済の一番の象徴である「国保税率」の大幅アップ予算がどう改善されるか見守ってきた。

また、新町長も就任早々国保税率は、一般会計から繰り出ししてでも引き下げるべきだと提案した。

おおもとは、国の悪政に原因があったとしても、最後の町民生活の防波堤は町だからである。しかし、これは最後まで実行されなかった。

その他にも、入湯税問題、臨時職員の同一労働・同一賃金問題等提起し、改



善を求めてきた。その後、一定の改善への方向は示されたが、20年度の決算時点ではそのまま推移した。

以上のことから、本決算は町民生活を守る点で不十分であり、改善すべきところが多いことから反対する。

## 国保特別会計

塚場 博敏議員

本会計は、新規に創設された後期高齢者医療制度に支援金を出すために、制度が大幅に変わり執行された。景気低迷のなかで保険税収入が大きく落ち込む予測のもと税の大幅アップが実行された。国保加入者の所得が落ち込めば、同じ保険税率でも支払いは厳しさを増す。町は、一般会計からの繰り入れをしても増税は防ぐべきであった。

結果は、医療費の伸びが予想ほどなく、基金を3百万円取り崩したものの1千10万円（実質7百10万円）基金を積み立てし、さらに9千3百万円の繰越金を出している。保険税の大幅引き下げは、現状の経済状況下では急務である。改善を求め、本決算に反対する。

## 介護保険特別会計

鶴岡 巖議員

介護保険は高齢化社会を迎え、介護を社会全体で支えるとして平成12年にスタートした。しかし、当初から問題視されていた「保険あつて介護なし」の状態は、改善されないまま今日を迎えている。特に特養への1百名を超える待機者の問題は、施設に入る前に亡くなる方も出るなど、深刻な状態である。

一方、施設側も今年度介護報酬3%の引き上げはあったものの、根本的な解決には至っておらず、運営は困難な状況にある。

今年度は、介護保険の見直しの時期にあたり、全国の3分の1の自治体が保険料の据え置きや値下げをしているなかで、当町は4月より基準額で4百円値上げし、住民負担は増加した。自治体の使命は、住民福祉の増進である。より良い介護保険に改善していくことが町に求められている。これまで以上の改善の取り組みを求め、22年度予算編成に反映することを要望し、本決算に反対する。

## 後期高齢者医療特別会計

鶴岡 巖議員

75歳以上の方を区別した医療制度は、「姥捨て山」ともいわれ、その保険料が年金から一方的に天引きされることで大きく政治問題化した。

町は、事務的な業務を担うだけだが、直接住民との窓口になるだけに問題点の多い医療制度に対して、国・県には機会があるごとに大いに意見具申すべきである。

この医療制度は、当町の平成20年3月議会で「中止・撤回をすること」を含む国への意見書提出が決議され、玉川町長自身も初議会で3点の理由を述べ、この制度はいったん白紙に戻し、国民的な議論をおこない、納得できる制度にすべきであると表明した。

政権が替わり、制度の動向が変化することも予想される。

引き続き国からの法律に準拠した間違いない行政をおこなっていく役割と、住民の立場で福祉増進の改善をしていく使命の二重の構えの責任を果たすことを求めて本決算に反対する。

## 賛成討論

### 一般会計

業 重悦議員

平成20年度の歳入は、百年に一度といわれる経済不況のなかで税収の減収が相次いだ。新たな課税や積極的な滞納処分・徴収率の維持など担当職員の相当な努力が見える。政府の臨時経済対策による地方交付税の増額、その他の歳入も概ね予定通り確保されている。

歳出は、厳しい財政状況のなかで、一宮町の未来を担う子供たちが安心して学べる施設整備である東浪見小学校の大規模改修と東浪見児童保育施設整備などの事業のほか、好評である事業は引き続き実施されており、住民ニーズに応えた。職員の新規採用の見送りや給与の見直しによる削減、見積り合わせや入札による経費削減など徹底した事務経費抑制の努力が見られる。

執行部の努力が十分評価できると共に、住民サービスの低下を招かないよう配慮された決算であると考え賛成する。

## 国保特別会計

志田 延子議員

国民健康保険事業は、被保険者の相互扶助により賄われ、一宮町の48・3%の世帯が対象となっている。

事業の仕組みの周知や納税意識の高揚を図る方策とし、広報やパンフレット等による啓蒙、春と秋に3課合同徴収による戸別訪問、納税相談に伴う収納率向上対策を積極的に進めている。

平成20年度は、老人保健から後期高齢者医療制度への移行に伴い、保険税率が改正された。歳出は、医療費の増加で年々厳しい状況であるが、昨年度に比べ医療費が減少し、基金への積立もされている。

## 介護保険特別会計

志田 延子議員

平成20年度は、平成18年度から3年間の第3期介護保険事業計画の最終年度であり、事業は概ね計画通りに完了した。

介護保険は、高齢者が安心して生活を送れる制度と

して着実に定着している。また、高齢化社会の進展により介護認定者が増加し、介護サービスの費用が増加するなか、介護保険会計は公費、介護保険料による介護サービスの利用に適切に対応し、円滑に且つ効果的に運営された結果と判断する。

よって、介護保険決算に賛成する。

## 後期高齢者医療特別会計

島崎 保幸議員

平成20年4月より、従来の老人保健制度から後期高齢者医療制度が創設された。

当制度は、国民皆保険制度を将来にわたって持続可能なものとするために、75歳以上の方の医療を現役世代と共に支えあう制度で、広域単位の運営とし、保険料格差が市町村でなく県内均一となった。

創設初年度で、制度内容の周知の遅れ等不備もあつたが、これらの苦情には変更や見直しが進められており、高齢化社会のなかで、健康で明るい老後を過ごすためにも、適切な決算として賛成する。

決

算

討

論

# 有機米の里づくり アクションを



畑場博敏議員

農業は町の基幹産業であり、振興策には人づくり、土づくり、道づくりが欠かせない要素である。

土づくりは、農業者と行政が努力して取り組めるテーマである。化学肥料の大量施肥で弊害が生まれている土を良質堆肥の投入で生きた土に再生させる事



耕運中の水田

は、農業者だれもが認める改善策である。しかし高齢化などで実行はむずかしい。町の水田に良質堆肥を投入し、有機米の里としてブランドづくりをしてはどうか。見解を伺う。

## 有機農業への 転換を 促したい

玉川町長 化学肥料や農薬の使用を低減し、有機肥料を使用する環境に優しい農業を推進し、安全・安心な

農産物を消費者に提供する事が重要である。

県は有機農業を取り組む農業者に一定の条件をクリアすれば、ちばエコファーマーとか、ちばエコ農産物の認定をおこなっている。町も有機農業に取り組んでいる先進地等を参考にしながら、有機農業の有効性の広報活動や転換を促す努力をしていきたい。

## 問題多い 医療センター ター計画は

東金市・九十九里町が進めている地域医療センター計画が動きだしている。山武・長生・夷隅の医療圏に「三次救急医療機関が求められている」が理由だが、

問題点が多い。両市町が専門機関に検証を委託した報告でも、総体的に建設費は膨らみ、医師・看護師確保でも問題を抱えている。病床利用率が計画を下回ると財政破綻がすぐ迫ってくる危ういものだ。開院後に長生・夷隅に協力を呼びかけるでは、民主主義の点から大きい問題である。見解を伺う。

## 長生病院 充実が急務

玉川町長 基本的には、一次救急は町の開業医であり、二次救急は長生病院、三次救急は当地域にはない、と認識している。

当計画は、まだ案の案で、長生広域組合にも具体的な話はきていない。長生地域は、二次救急医療機関である長生病院の整備と健全化が一番の急務である。私見であるが、二次救急医療機関は、市町村が広域的に処理するのが当然で、三次医療・高度医療は、本来

県がおこなうべき役割と考えている。

## 駅にエレベーター 設置を

一宮駅のバリアフリー化のためにエレベーターを設置してほしいとの声が多い。

高齢化が進むなかで、階段の上り降りが非常に大変である。どこかに出かけて下り電車で帰ってくる場合



待たれるエレベーター設置

に、3番線へ入る下り電車だとほととします。先日も旅館のおかみさんから、エレベーター設置を望むお客さんの声を聞いた。国・JR・町の財政負担で設置できる制度ができたと聞いているが、進捗状況を伺う。

## 新年度予算 に計上する

玉川町長 エレベーター設置は、早期実現に向けて、

JRや、地元選出の国会議員等に要望活動をおこなってきた。

町バリアフリー協議会もエレベーター設置を含む要望書を9月28日JR千葉支社長に提出し、回答を得ている。内容は、国の補助制度を活用し、一宮駅にエレベーターを設置する。トイレ改修や段差を解消する工事もおこなうものである。

町も事業にかかる経費負担等を新年度予算に計上し実現を図りたい。



町づくりが見える  
取り組みを



鶴岡 巖議員

玉川町長が進めている情報公開と住民との協働の町づくりは、画期的なものとなっている。しかし、その取り組みは町づくりの「手段」であり、具体的な町の



住み良い町へ

住んで良かったといえる町へ

姿が見えない。町長は、「どういう町にするのか」明確な姿勢を示すべきである。そして、予算編成でも「あるべき町の姿」と、「その方向」を示し、その部分に予算を重点的に配分すべきである。

また、町は補助金の見直しを進めているが、補助金のあり方と同時に、優先度のランクづけ等の検討が必要である。考えを伺う。

玉川町長 私が目指す町の姿は、豊かな自然環境を守り育てることを大きな柱とし、農業と観光を基軸に町の活性化を図る。そして、子育てから高齢者までの福祉に力を入れ、「この町に住んで良かったといえる町づくり」を考えている。

また、予算配分も、町づくりの方向に沿った重点的な配分を考えたい。

林総務課長 新年度より補助金の見直しとし、補助金要望書の様式の変更や補助金の査定方法を改めた。審査には、一宮町補助金等交付規則を遵守し、必要に応じて実績報告を求めていることを考えている。

どうなる後期高齢者医療制度

厚生労働省は、今年4月改定を前に保険料の全国平均13・8%アップを公表した。

そして、「現行制度を廃

止するまでの間、可能な限り保険料の増額を抑制することが必要」とし、県広域連合の剰余金の全額活用や都道府県の財政安定化基金の取り崩し、市町村等には法定外（一般財源）からの繰り入れを要請した。

こうした動きのなかで、千葉県広域連合の保険料の試算はどのように検討されているのか。

また、多くの批判を受けた年金天引き問題は、口座振替との選択制となり、健康保険等の被扶養者だった方や年金・所得の低い方へは、保険料の軽減措置がとられるようになった。こうした改善点は、今回の見直

どうなる千葉県広域連合議会の条例改制

保険料の軽減措置等は継続

しでどうなるのか。

町長は、この医療制度について一昨年の6月議会での3点の問題点を指摘し、廃止の意見表明をされた。改めて見解を伺う。

この制度は、一昨年の6月議会で①75才以上で線を引く合理的な理由がない。

②お年寄りをみんなで支えていく、という伝統的な日本の家族制度との間に大きな乖離がある。③いったん白紙に戻し国民的な議論をし、国民が納得できる制度にすべきである。との考えは、基本的には変わらない。

非常にわかりにくい制度であり、今後は、わかりやすいシンプルな制度をつくっていただきたい、と厚生労働大臣にお願いしたい。

# 急げ海岸浸食対策



中村新一郎議員

量の砂を大型船舶で運搬する計画であるが、コスト面で問題としている。陸地から公共事業搬出土砂の供給案もあるが町長の考えを伺う。

## 国・県に強く要望する

玉川町長 県の単独予算により、今年11月太東漁港南側に堆積した砂を

県は、浸食によって砂浜が消失している九十九里浜を再生するため、9年がかりで約20万㎡の砂をまき、定着させる計画である。今年9月にも、被害の深刻な一宮海岸の沖合いに砂を投入するとしていた。また大



なるか砂浜再生

7千7百㎡陸上から投入した。12月以降は、片貝漁港の浚渫土を1万1千㎡海上から投入、更に陸上から6千㎡投入する予定と聞いている。多額の経費がかかることから国にも強く要望していく。12月17日にも国会議員を通して要望する。また土砂投入のコスト面であるが、海上からと陸上からの投入を比較検討する旨、県から回答を得ている。

## いいのか 高潮・津波対策

県は、九十九里浜の松食い虫被害が拡大し、高潮・高波を防ぐことができない。松食い虫に強い品種改良や潮に強い苗木の植栽をしているが、これらに頼ることなく圏央道等建設残土で防潮堤を築堤できないか。また、延長し九十九里有料道路を嵩上げして接続し、道路として機能を持たせることはできないか。

## 引き続き 関係市町村と相談

玉川町長 建設残土を海岸に積み上げたりストックすることは、自然公園法・森林法により制約があり難しい。建設残土を養浜材料として使用するには、漁業とか海水浴、また、生物など環境面を考慮しつつ地域及び地元漁業関係者との合意が必要である。

## 海岸法有効活用を

県は、海岸保全基本計画を策定している。計画は、海岸の保護・環境保全・利用の観点から総合的な海岸保全のあり方を示したもので、海岸利用のルールづく



津波に対応できるか堤防

## 調査研究し 関係者と協議する

露崎都市環境課長 海岸法

りや利用整備を促進するとしている。改正海岸法では、市町村の要請があれば海岸管理を県から委譲できることになっている。地域の特性を生かし、町の裁量で観光振興の施設整備が可能である。地元の意向に沿って、町として独自の施策を考えているか伺う。



# ゼロ予算事業を問う



志田延子議員

4月の広報に掲載された職員提案のゼロ予算19事業

玉川町長 2件は、天候不

他の、庁舎内での行政改革等の成果を伺う。

17事業は  
実施進行中



開放している園庭

- ①総務課は公用封筒を一宮シーサイドオートツカから1万枚の提供で9万円の削減
  - ②まちづくり推進課は総合計画をコンサルタントを頼まずに進める
  - ③税務課は平日夜間の電話予約の証明書発行の実施、全庁体制で徴収を実施、事務の見直し等で経費削減約100万円
  - ④住民課は平日夜間の電話予約の証明書発行実施
  - ⑤保育所は入所前の親子対象の行事体験・園庭開放を実施
  - ⑥都市環境課は環境ボランティアの募集27名、道路美化事業は伊勢化学工業が協力、職員の道路パトロール、工事の進捗状況のホームページ掲載
  - ⑦産業観光課は市民農園事業を現在協議中、観光案内人育成事業は資料等策定中
  - ⑧教育課は東浪見小と学校支援ボランティアによる海岸清掃事業の実施。一宮小学校は、養蜂家の久我さんから、特別授業実施
- 他にも様々実施している。今後も経費をかけず知る。

恵を絞り、町民の方々へのサービス向上に努めていきたい。

## 町長と語る 会開催方法 の再考を

住民との語る会が、10月に3回、区長・区長代理と語る会が1回、計4回実施されたが、参加人数も少なく開催方法を再考すべきと考えるが。

## 検討する

玉川町長 1回目は、新年度予算が編成された後に「わかりやすい予算説明書」をつくり、町政報告会という形で2回開催した。前回の反省のもと開催場所・開催時間等を検討し、10月に開催したが、ご指摘のとおり参加人数が少なく、今後の開催に向けて再検討する。

## 一宮町役場 各課の直通電話番号簿

この電話番号簿は、役場に電話をおかけになる時にご利用下さい。  
※土曜日・日曜日・休日及び夜間は、42-211.1.1におかけ下さい。  
窓口担当が対応します。

課名	直通電話	主な業務
住民課	42-1429	戸籍、住民登録、印鑑登録、外国人登録、国民健康保険、後援会等各種保険、国民年金
税務課	42-2114	国民税、固定資産税、軽自動車税、国際自動車税等の賦課・徴収業務、納税相談
会計課	42-1422	公金の出納事務
総務課	42-2112	契約、助成、町民行政相談、自治会、施設、広報、防災、財産管理、コミュニティ、選挙
まちづくり推進課	42-2113	総合計画、駅前推進、町民活動支援
産業観光課 農業委員会	42-1427	農林水産業、畜産業、観光、農業集落排水事業 農地の移動、転用、貸し借
議会事務局	42-1421	議会運営事務、議会活動支援
都市環境課	42-1430	町政管理、工事、町民住宅、道路占用、建築指導 消防行為、環境、産業廃棄物、し尿、ごみ処理 自然公園、施設保護、火警報、都市計画
福祉健康課 社会福祉協議会センター	42-1431 40-1055	社会福祉、母子福祉、老人福祉、障害者福祉、児童福祉 障がい者・障害者福祉、生活保護、住居確保 介護保険、介護予防、高齢者相談窓口
教育課	42-4576	学校施設の維持管理、社会教育、社会福祉 図書館の維持管理、一宮号、文化財、青少年 公民館等
保健課	42-3211 42-2514 42-2224	保健業務 (入所に関するお問い合わせは一宮保育園へ)
行政事務課	42-3424	行政事務
子育て支援センター	42-1729	子育て支援
子育ての森	42-6159	子育ての森
総務課	42-5655	総務課
施設課	42-6237	施設課
G S センター	42-6787	G S センター
町の総務室	42-7799	町の総務室

## 庁内の直通 電話番号 の配布を 一覧表を 配布する

機構改革に伴い、各課の直通電話番号が、変わっている。町民の方から新しい直通番号の配布を求められたが考えを伺う。

林総務課長 機構改革後、広報でお知らせしたが、町民に十分に伝わっていません。広報に再度掲載し、各課の業務内容等の一覧表を作成し、全戸配布する。

あなたも議会を傍聴しませんか！

次回は3月8日(月)からの予定です

—お気軽にどうぞ—

# 請願の審査結果

件名	請願者	結果
「中小企業者の自家労賃を必要経費として認めるために、所得税法第56条の廃止を求める意見書」提出の請願書	茂原市小林 2494-8 茂原民主商工会 会長 田村 眞紀夫	採 択

# 議員発議（意見書）の審査結果

件名	提出者・賛成者	結果
所得税法第56条の廃止を求める意見書	・提出者 一宮町議会議員 畑場 博敏 ・賛成者 一宮町議会議員 室川 常夫 ・賛成者 一宮町議会議員 小関 国男 ・賛成者 一宮町議会議員 森 佐衛 ・賛成者 一宮町議会議員 萩原 一美 ・賛成者 一宮町議会議員 緑川 弘行	可 決

平成21年第2回臨時議会は11月27日に開催され、条例の一部改正3件、補正予算は一般会計他6会計が原案とあり可決しました。

## 特別職に在る者の常勤の給与及び旅費に関する条例の一部改正

特別職の期末手当の改正内容は、職員が期末手当の減額改正と同様に、千葉県人事委員会の勧告にならない見直すので、期末手当を職員と同じ支給率に減額（20/100減額）するものです。

改正前	6月	210/100	↓	改正後	195/100
改正前	12月	225/100	↓	改正後	220/100

## 一般職員の給与に関する条例等の一部改正

改正内容は、人事院勧告並びに千葉県人事委員会の勧告にならない、職員の給与と期末手当を見直すもので、給与については、平均0.2%減額、期末手当については、35/100を減額するものです。

改正前	6月	215/100	↓	改正後	195/100
改正前	12月	235/100	↓	改正後	220/100

## 議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

改正内容は、議会議員期末手当の年間支給月数を改正前の4.35月分から4.15月分とし、特別職や一般職員と同じ支給率に減額するものです。また、平成21年12月の期末手当に限り支給を2.05月分に減額し、6月支給済みの2.10月分と併せた年間支給月数を4.15月分とするものです。

## 補正予算

- 一般会計補正予算（第3次）
- 国民健康保険事業特別会計補正予算（第3次）
- 介護保険特別会計補正予算（第3次）
- 後期高齢者医療特別会計補正予算（第2次）
- 一宮荘特別会計補正予算（第2次）
- 老人福祉センター特別会計補正予算（第2次）
- 農業集落排水事業特別会計補正予算（第2次）
- 一般会計他6特別会計補正予算の内容は、一宮町の特別職に在る者の常勤の給与及び旅費に関する条例・一宮町一般職員の給与に関する条例等の一部改正に伴う給与・期末手当の引下げによるものです。

## 反対討論

鶴岡 巖議員

一般職員の給与平均0.2%及び特別給を0.35ヶ月分（平均12万円余り）をカットするとうる人事院勧告が出されたことに対し、町は、どのような検討をし、影響の出る職員へ話しをしたのか、組合組織のない130名余りの職員は、この人事院勧告の内容に声を出す機会がありません。町長をはじめ町執行部は、どのように受け止めているのか。

財界・大企業が作りだした経済不況の結果のため、官・民格差に民間準拠の名のもと公務員労働者に賃下げを迫り、内需を拡大し景気回復を求める声に応えようとならない。そうした、今回の人事院勧告は、公務員に労働基本権を制約する代償措置としての役割を放棄した不当なものだと言わざるをえません。

千葉県の自治体で働く公務員で組織されている自治労連のチラシでも、「今回の大幅削減はこの11年間で公務員の平均年間給与が58.3万円も引き下げられている」と指摘



しています。

町長は、いま住民との協働でのまちづくりを呼びかけているが、同時に町職員の創造的な力の発揮が欠かせないことも、十分に認識されていると思います。

職員の生活と権利を守る立場に立ち、町職員の給与が、暮らしや子育てに必要な給与水準になっているのか、町自身が、自主的に判断することであり、

政府は、11月20日に「緩やかなデフレ状況にある」との認識を示しました。これは、国内の消費が弱いため、商品の値下げ競争が続く、そのために労働者の賃金を下げる。その結果、より購買力が落ちる。また、製品の値段を下げ、労働者の賃金を下げるといふ悪循環を起しています。こうしたデフレスパイラルに入ったといわれる経済状況のなかで、「民間を含めた賃下げの悪循環に歯止めをかけるためにも、職員の賃金引下げをおこなわない」と決断すべきであると主張し、反対します。

なお、一般会計他6特別会計補正予算の審議は、本議案と関連するので、討論はしませんが反対とします。

## 賛成討論

萩原 一美議員

一宮町一般職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例案を賛成の立場から討論します。

昨年来の世界的な金融危機を端とした景気の急速な悪化は、百年に1度と言われるほどの経済危機であるとも言われており、8月11日の人事院勧告では公務と民間の給与比較において、月例給、特別給のいずれも公務が民間を上回っていることから、公務員の給与引き下げ改定が勧告され、国及び千葉県ではこれに伴う給与改定の措置を進めています。

今回の勧告内容を一宮町職員に適用するのは、地方公務員法第24条で、「職員の給与は生計費並びに国及び他の地方公共団体の職員並びに民間事業従事者の給与、その他の事情を考慮して定めなければならない」と規定され

ている「均衡の原則」に基づき、人事院が従来から公務員の給与を民間の勤労者の水準に合わせることを基本としている。公務員給与は町民の目線に立って理解を得るとともに、労使関係の安定と公務の円滑な運営確保に役立つことからの、十分尊重されるべきものであり、公務員の信頼を得るといふ観点からも、本議案に賛成します。

また、ラスパイレース指数が低いことは、今後早期に改善措置されることを要望し、賛成討論を終わります。

## 特別表彰

町議会議員として三十年以上にわたり地域社会の発展及び住民福祉の向上に尽くされた功績が認められ、全国町村議会議長会長より、創立六十周年記念特別表彰者として表彰されました。

(平成21年11月11日付)

一宮町議会議員 畑場 博敏氏(57歳)



### 【議長・議員が出席した主な行事】

議会の主な動き (平成21年10月～12月)	10月	11月	12月	
3日	一宮保育所運動会	3日	一宮町農林商工祭	
3日	一宮町北部地区地域福祉フォーラム	4日	議会議員視察研修(4～5日)	
5日	広域決算審査特別委員会	9日	長生病院運営委員会	
6日	県町村議会議長・副議長自治研修会	9日	郡町村議会議長会臨時会	
10日	エコ・フェスタ in 千葉	11日	郡町村議会議長会視察研修(11～12日)	
14日	議会報編集委員会	15日	七歳児合同祝	
19日	決算審査特別委員会(19～20日)	19日	議会全員協議会	
22日	例月出納検査	20日	例月出納検査	
25日	芸能と音楽を楽しむ会	20日	広域議会運営委員会	
26日	広域議員視察研修(26～27日)	20日	広域議会定例会	
31日	一宮町文化祭	26日	郡市負担金審議特別委員会	
		27日	第2回臨時議会	
			2日	議会運営委員会
			2日	議会議員全体会議
			2日	議会報編集委員会
			8日	定例議会
			15日	北部地区農業集落排水事業会議
			21日	例月出納検査
			21日	議会報編集委員会
			26日	漁業組合合併仮契約調印式

## 「議会の活性化」と「子育て支援日本一」の昭和町

### 指定管理者制度の道の駅「富士吉田市を視察

平成21年11月4日、山梨

県昭和町議会を訪ねた。

小さくても豊かなまちづくりをテーマに、行政の大化を防ぎ、住民と行政が一体となったまちづくりを進めていくことが、最も重要だと町長のメッセージに

あった。

議長の出迎えの挨拶では、平成20年度は、前年に続き大型継続事業「区画整理事業・町営住宅・公園」が進められ、一般会計での歳出総額は84億4千万円に達している。また、財政健



昭和町役場前

全化比率は全てクリアされている。しかし、アメリカ発の金融危機によって大幅な税収減が見込まれ、議会としても事業計画を精査し、無駄のない行政運営に知恵を絞っていききたいと述べていた。

昭和町では議会の活性化の一つとして地元山梨学院大学と連携し、分権時代の議会及び議員のあり方の追求と称して研究センターの教授陣を囲み、一方通行の講義ではなく相互に課題を持ち寄り、そのテーマを解明するといった実践的な研修を過去7回にわたりおこなっており、この研修には全議員が参加をしている。このような取り組みにより「地方自治の法制度・地方分権の動向と議会の役割・地方自治と自治会及び町内会・地域福祉政策・健全化法と地方財政」等々、専門知識と大学生の若い感性を、今後の議会の活性化に生かしていきたい。

さらには井戸端会議と称して、昭和町の各地区の多くの

問題を地元から引き上げ、町民の声を十分に取り入れた区長と議員の座談会を通じて、議会の活性化に取り組んでいた。

今回視察した昭和町の人口は約1万7千人、世帯数にして約6千9百戸（平成21年9月現在）で、毎年増加傾向にある。その大きな要因として、若い世代の人口を増やす目的として、多くの手段を講じていることがあげられる。その一つは、人口増加を図る点からおこなわれている区画整理事業による雇用の創出や町営住宅の整備がある。

昭和町では、子育て支援事業の一環として「ファミリーサポート昭和」と称し、町内の全ての子育て家庭が入会できる会員組織として規則を設け、さまざまな育児相互援助活動をおこなっている。援助活動には保育園・幼稚園の送り迎え及び預かりから子供の習いごとや学校の入学前・休校時・保護者の病気の場合等多項目に渡り、徹底した援助活動が成されていた。今後は計画的に学校・図書館・体育館等の施設を最大限利用し、子育て支援や教

育施設の充実に積極的に取り組んでいく計画であり、これからの活動内容には一から十までという位に感心させられた。

11月5日、富士吉田市を訪ねた。道の駅は、市の南の玄関口である国道138号沿いに開設され、運営形態は指定管理者制度であり、特徴は富士山の絶景・美味しい水・吉田のうどん等幅広い取り組みに好印象が残った。道の駅は、時間消費型の新しい観光拠点を目的とした雇用の創出・物産館等での地場産品の販売と開設による経済効果、更には利用者に対して地元の観光情報を促し、交流人口の増加による地域の活性化を推進することのできる場であり、わが一宮町では必要と思いつつも、まだ十分に検討されていないことを今回の現地視察で考えさせられた。

最後に、一宮町議会も努力を怠ることなく精進し、今まで以上に住民との掛け橋となることを思い直し、議員一同が積極的に取り組んでいくことを心した有意義な議会研修視察でした。

緑川弘行議員

## 編集後記

新しい年を迎え、本年が町民の皆様にとつてよりよい年になりますことを、お祈り申し上げます。

昨年は、リーマンショックを始まりとした激動の一年でした。政権交代、定額給付金、非正規労働、エコポイント、食の安全、新車購入補助制度などさまざまな問題がありました。

新型インフルエンザの流行が、世界的におこり、一宮町も広報、チラシ等で新しい情報を提供し、正しい予防対策を伝えるように努力してきました。議会も、町民の皆さんに的確な情報を素早く伝達するよう、町に働きかけをしてきました。多くの人は、外出後の手洗い、うがい等は、知っています。いかに実効性を高めることができるのか知恵を出し合いよりよい成果がでるよう希望しています。

これからも議会だよりの内容を分かりやすくお伝えできるよう努力していきます。

石野以和夫議員